

検査項目のご説明

2018年8月1日改訂
監修検査医：五味 邦英

分類	検査項目	検査内容の説明	基準値			
			男性	女性	単位	
尿	尿蛋白	腎臓や尿管の障害や機能低下を調べる検査です。	(－)		なし	
	尿潜血	尿中に赤血球があるかどうかを調べます。腎臓、尿管、膀胱からの出血の有無を調べる検査です。	(－)		なし	
	尿糖	尿中のブドウ糖の有無を調べる検査です。	(－)		なし	
	尿沈渣	赤血球	尿を遠心分離器にかけ、沈殿した赤血球、白血球、上皮細胞、円柱細胞などの固形成分を顕微鏡で観察し、1視野にある数や種類を調べる検査です。	0～1		個/スウシヤ
		白血球		0～1		個/スウシヤ
上皮細胞		0～1		個/スウシヤ		
細菌		(－)		なし		
便	糞便中ヘモグロビン	大腸などの消化管から出血があると陽性になります。	(－)		なし	
血算	白血球数/WBC	細菌感染や炎症が起こると増加します。	40～85		$\times 10^2 / \mu\text{l}$	
	赤血球数/RBC	貧血の有無や種類を調べる検査です。	415～550	380～490	$\times 10^4 / \mu\text{l}$	
	血色素量/Hb		13.5～17.5	12.0～15.0	g/dl	
	ヘマトクリット/Ht		39.0～51.0	35.0～45.0	%	
	血小板数/PLT		12.0～36.0		$\times 10^4 / \mu\text{l}$	
凝固	プロトロンビン時間/PT	血液の固まりやすさを調べる検査です。	80～125		%	
	フィブリン分解産物/FDP	血管内の血栓の量を測定します。凝固症候群や肺塞栓症など、血栓を起こす病気を発見するとともに、その重症度の診断に利用されます。	5.0以下		$\mu\text{g/ml}$	
	D-Dダイマー		1.0以下		$\mu\text{g/ml}$	
全身	総蛋白/TP	血清中の蛋白は大きくアルブミンとグロブリンに分けられ、2つの蛋白の比(A/G比)や、どの成分が増えたり減ったりしているかをみることで、全身の健康状態や病気の有無を知ることができます。健康を維持するために主に肝臓で作られており、また腎臓で再吸収されるので、代謝異常の診断に利用されます。	6.5～8.2		g/dl	
	アルブミン/ALB		3.8～5.3		g/dl	
	A/G		1.00～2.00		なし	
肝臓・胆管	総ビリルビン/T-Bil	肝臓の代謝過程で生成され、通常は胆管から胆嚢へ運ばれ、胆汁となります。肝疾患で増加し、黄疸の有無や種類の診断に利用されます。	0.30～1.20		mg/dl	
	直接ビリルビン/D-Bil		0.00～0.40		mg/dl	
	アルカリフォスファターゼ/ALP	肝臓、胆道、骨の状態をみることができます。肝疾患や骨折などで高値を示します。また、成長期にも高くなります。	100～340		U/l	
	AST (GOT)	肝臓、心臓、骨格筋などの細胞に多く含まれる酵素で、臓器の障害で細胞内からこれらの酵素が血液中にでてきます。酵素の量から肝細胞等の状態をみることができます。	8～40		U/l	
	ALT (GPT)		5～45		U/l	
	γ -GT (γ -GTP)	肝臓、胆道の状態をみることができます。種々の肝障害やアルコール常飲者で高値を示すという特徴があるため、アルコール性肝障害の診断に利用されます。	75以下	35以下	U/l	
	乳酸脱水素酵素/LDH	肝臓、心臓、肺、血液、骨格筋などに多く含まれる酵素です。これらの臓器の損傷で高値を示し、特に肝疾患、心筋梗塞、悪性腫瘍等で上昇します。妊娠により高値となることもあります。	115～245		U/l	
	コリンエステラーゼ/CHE	肝臓で生成される酵素で、肝臓の状態をみることができます。肝疾患(特に肝硬変症で顕著)で低値を示し、栄養過多や脂肪肝では高値となります。	239～485	209～463	U/l	
心臓	CK (CPK)	心筋の状態を知ることができます。心筋梗塞などで上昇します。また、激しい運動のあとでも高値になります。	55～250	40～165	U/l	
	CK-MB		10以下		U/l	

※基準値は施設により異なります。検査結果の解釈は、担当医の指示に従ってください。

分類	検査項目	検査内容の説明	基準値		
			男性	女性	単位
腎臓	尿素窒素/BUN	体内で蛋白質代謝によって生じ、腎臓がどのくらい老廃物を処理排泄しているかの指標となります。腎機能が低下してくると増加します。	8.0~23.0		mg/dl
	クレアチニン/CRE	蛋白質以外の老廃物の一種で、腎機能が低下してくると増加します。BUNより特異的に値が変動します。	0.61~1.08	0.46~0.80	mg/dl
	尿酸/UA	細胞の新陳代謝によって生じる物質で、痛風は尿酸結晶が手足の関節などに溜まり激痛を引き起こします。腎機能の低下やアルコールの過剰摂取、美食により高値を示します。	3.8~7.0	2.6~7.0	mg/dl
脂質	総コレステロール/T-C	血管の強化・維持など身体にとって重要な役割を果たしていますが、多すぎると血管に沈着して動脈硬化を起こし、心筋梗塞や脳梗塞などの原因となります。動物性食品の長期摂りすぎで上昇します。	130~219		mg/dl
	中性脂肪/TRG	主に身体のエネルギー源として重要ですが、多すぎると肥満や脂肪肝、動脈硬化など様々な成人病の原因となります。	30~149		mg/dl
	HDLコレステロール/HDL-C	LDLコレステロールは血管壁に溜まり、動脈硬化や心筋梗塞発症の危険因子とされ「悪玉コレステロール」と呼ばれ、HDLコレステロールは溜まったLDLコレステロールを取り除く「善玉コレステロール」と呼ばれています。2つのバランスや全体の量(総コレステロール)、中性脂肪等から、上記疾患の有無や程度を知ることができます。喫煙、肥満、糖尿病などによりHDLは低下してしまいます。	40~85	40~95	mg/dl
	LDLコレステロール/LDL-C		70~139		mg/dl
電解質	ナトリウム/Na	水分やミネラルのバランスで栄養状態や腎臓の状態をみることができます。カルシウム(Ca)や無機リン(IP)では、骨や副甲状腺の状態も知ることができます。また、利尿剤を服用しているときは、カリウム(K)やマグネシウム(Mg)が低くなる場合があります。	136~147		mEq/l
	カリウム/K		3.5~5.0		mEq/l
	クロール/Cl		98~108		mEq/l
	カルシウム/Ca		8.5~10.2		mg/dl
	無機リン/IP		2.5~4.5		mg/dl
膵臓	血清アミラーゼ/S-AMY	膵臓、唾液腺の状態をみることができます。	37~133		U/l
	尿中アミラーゼ/U-AMY		37~849		U/l
血糖関連	ヘモグロビンA1c/S-HbA1c	糖尿病で高値を示し、1~2ヶ月前の平均血糖値を知ることができ、糖尿病の経過観察に利用されます。	4.6~6.2 (NGSP値)		%
	血糖(グルコース)	血糖は身体のエネルギー源として重要で、一定に保たれていますが、糖尿病により高値を示します。食後の検査では高くなるため、通常は空腹時の血糖値を測定します。	70~109		mg/dl
貧血	血清鉄/Fe	貧血の有無や種類を知ることができます。	60~200	50~160	μg/dl
	TIBC		250~380	250~450	μg/dl
	フェリチン/FER		13~277	4.8~152	ng/ml
甲状腺	甲状腺刺激ホルモン/TSH	甲状腺に関連するホルモンを測定することにより、甲状腺と下垂体の動きを調べます。甲状腺ホルモンはエネルギーの代謝、酸素消費などの能力を高める作用があります。妊娠中は数値が変動します。	0.35~4.94		μIU/ml
	Free T3		1.88~3.18		pg/ml
	Free T4		0.70~1.48		ng/dl
腫瘍マーカー	CEA	大腸、肺、膵臓などのがんで高値を示します。長期喫煙者も上昇します。	5.0以下		ng/ml
	AFP	肝臓がんで上昇しますが、それ以外に肝機能障害でも検査します。妊娠中でも上昇します。	10以下		ng/ml
	CA19-9	膵臓がんや胆のう・胆管がんなど、消化器系のがんで高値を示します。婦人科腫瘍でも上昇します。	37以下		U/ml
	PSA	前立腺がん、前立腺肥大症で高値を示します。	4.000以下		ng/ml
炎症	C反応性蛋白/CRP	炎症性疾患の有無や程度を知ることができます。	0.30以下		mg/dl
	赤血球沈降速度	感染症、リウマチ・膠原病などの慢性の炎症で高値を示します。	10以下	15以下	mm/1h

※検査結果の電話でのお問い合わせは、一切お受けできません